

精神障害者の就労定着に向けた 運動プログラムの有効性の検討

順天堂大学  
スポーツ健康科学研究科  
学籍番号：4118010  
氏名：河野宏明

【目的】

精神障害者の就労課題に対して、支援の段階から運動・スポーツを取り入れていくことがその後の就労・就労定着にも効果が上がるのではないかと考えた。そこで①就労支援事業所における運動・スポーツ機会の提供に関する実態把握②各事業所のニーズを把握し、必要な支援の提言を行うことの2点を研究目的とした。

【方法】

A 県の 136 施設に対して郵送式の質問紙調査を実施した。44 施設から回答を得て回収率は 32.4%であった。質問紙は 2019 年 8 月上旬に一斉に各施設に向けて郵送した。回収は随時各施設から返信があった際に研究室にて回収し、9 月末日をもって回収を終了した。

【結果】

利用者の運動スポーツの効果については先行研究を支持する結果であった。しかし就労・就労定着支援と運動・スポーツ実施の観点からみると、ほとんどの施設で「体操」や「ウォーキング」を施設の職員や利用者で施設内または近隣の道路や公園等で実施されていることから運動・スポーツ実施の際も初対面の人とコミュニケーションを取れる環境を整えることや体操やウォーキングなど簡易的な運動でもコミュニケーション能力向上できる工夫をする必要がある。

【結論】

運動・スポーツの専門家が様々な種目・レベルの運動プログラムを作成し、運動する際の注意点や中断するタイミングなどを福祉の専門家がマニュアル化することで運動・スポーツに関するノウハウを持たない職員もこれらに従って実施できる工夫をする必要がある。